

## 令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	よく定義されたゼオライト合成と詳細な構造組織の総合的理解
研究代表者	村松 淳司 (東北大学・多元物質科学研究所・教授) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 5 (2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p><b>【課題の概要】</b></p> <p>本研究は、化学工業で広く用いられている結晶性・多孔質材料であるゼオライト触媒において、応募者らが有する世界トップレベルのゼオライトの合成技術を発展させ、次世代放射光による新しい解析技術と融合させることで、原子レベルでヘテロ原子位置が制御されたゼオライトの合成方法と新しい構造解析方法を確立することを目的としている。これにより、高機能触媒材料への応用技術の確立を目指す。</p> <hr/> <p><b>【学術的意義、期待される研究成果等】</b></p> <p>古くから幅広い分野で利用されるゼオライトの科学は依然として発展途上にあり、特に触媒活性点となるヘテロ原子の位置制御や解析は極めて重要である。本研究は、この問題に応募者らが独自に培ってきた技術を発展させて解決に取り組むもので、学術的に十分な意義がある。ゼオライトのみならず、材料化学分野、放射光を用いた学術分野への波及効果も大いに期待できる。最適な構成メンバーによる研究であり、準備状況も良く、早期の成果創出が期待される。</p>